



『ぼらっと』とは「ぶらりと」気軽に、
「ボランティア」しましょう!!という造語です。

〒020-0541 栗石町千刈田82-2

雲石町総合福祉センター内

栗石町社会福祉協議会ボランティア活動センター

電話／692-2230 F A X／691-1140

e-mail/shizukuishi-VC@shisha.or.jp

<http://www.shisha.or.jp/>

ホームページからもご覧になれます。

震災で被害に遭われた皆様へ心からお見舞い申し上げます。

三月十一日、東日本大震災の被災地では、救済物資並びに義援金の受付を三月十九日から四月一日の期間、延べ204名のボランティアの実施するところとができました。ありがとうございます。

四月二十日現在、皆さまより協力頂いた支援物資は65件、義援金総額は37万5796円となっており、ます。

沿岸被災地並びに町内へ一時避難されている方へお届けされておられる義援金は、岩手県災害義援金募集委員会を通じて被災地域へ配分されます。

被災地

『東日本大震災』これからの私たちにできること！！
一緒に考えてみませんか？

★**風評に惑わされない。**
「福島県産」と名前がつくだけで、市場にすら出回れず、野菜などが大量廃棄処分になっていく光景をテレビで見ます。安全なもの、売られているはずなのに……。俗にいう「風評被害」ですよね。買い手である私たち、が自分の目で見てしつかりとし、判断を今こそするべきです。

★家族との連絡方法を決める

震災直後、当たり前前に使用していたメールや電話がつかない状態が続きましした。災害に遭ったらどのようにして、家族に自分の安否を知らせるか。自分とは、どこの避難所へ行けば良いのかを日頃から家族と話合うことが大切です。また、未だに品薄ですが、携帯ラジオや懐中電灯など、今一度、災害時に必要なるものを揃えましょう。

★**救援物資・義援金**
 救援物資は、震災直後から現在では、被災された方の必要なものが序々に変わってきているので、正確な情報を得るべきです。義援金については、大規模震災ですから、今後必要となります。また、被災地を支援しているボランティアやNPO団体への支援金（活動資金）を集めることも必要なことだと思います。

今回の震災は、国内最大級の地震といわれているとおり、亡くなり、1万400人以上の方が亡くなり、1万2000人以上の方の行方がわかっていません。ん。（四月二十四日現在）そして、今なお避難所での生活を余儀なくされている方々が大勢おられ、この東日本大震災がどれだけの規模の震災だったのか思い知らされます。

被災地では、徐々に復旧作業が進み、私たちも普通の日常生活に戻りつつあります。それでも例年と何か違うものを感じます。

私たちは春らしくなれば、歓迎会や花見・総会後の懇親会など、例年行われていたものが、被災地のことを思い自粛されている傾向のように思います。これに対して、日本の経済を考えればこそ自粛ムードを吹き飛ばそうという考えもあります。

「自粛」に対する考えは人それぞれです。どちらの考えであつても「今回の震災を忘れたくない。被災地の方々の生活を忘れない。」という思いから来ることだと思えます。

だからこそ、当たり前であつたことが当たり前でなくなる目撃が突然来ることを忘れず、日々が生活を送っていくことが大切だと思います。

毎月十一日には、自転車や徒歩で職場に行ってみたり、夜には、口ウソクを灯しながら家族や友人とじっくり話をすること、もういいかもしれませぬね。



救援物資受付・仕分け作業ボランティアにご協力いただいた、 皆さん本当にありがとうございました!! ～作業の様子をほんの一 部ご紹介します～

輝いた若い力!!

救援物資の受付・仕分け作業では、多くのボランティアの力が発揮されました。(延204名)中でも一際輝いていたのが、春休み期間だった『**学生ボランティア**』の皆さんです。

町内のライフラインが復旧し、一般のボランティアさんがお勤めに出るようになり、平日のボランティアが少なくなるなあ～大変だなあ…と思っていたところ、率先して協力して下さったのが(この皆さん)

↓↓↓↓↓↓

部活の合間をぬって参加してくれた雫石高等学校野球部・スキー部の学生さん。直接ボラセンへ電話をくれた岩手高校・不来方高校・盛岡商業高校の学生さん。アルペン公園を通りかかった雫石中学校の学生さんと兄妹で協力してくれた雫石小学校の生徒さん。本当は、お名前をご紹介したいところですが、恥ずかしい年頃ということで、写真ならと許可を頂きました。

また、ボランティア終了日には、学生の皆さんから感想を頂戴しました。一部を紹介させていただきます。

- ★ 被災地・被災者の為に何かしたいと思っていた所でボランティアを手伝わせてもらい感謝しています。今回の地震は国内最大の地震という事で、失ったものは大きいと思いますが、生きる希望を持って頑張りたいです。
- ★ 普通の生活が当たり前だと思っていたけれど、普通であることがとても幸せなことだと気づきました。
- ★ ボランティアをして、とても心の優しい人が多いと思いました。通りすがりの人が募金をしてくれたり、被災者の方を考えて物資を持ってきてくれたり。一日でも早く被災地の方が元の生活に戻れるように、これからも色々なことに協力していきたいです。

もちろん!輝いていたのは学生さんだけではなく、寒い中(福祉センターの暖房は重油がなく停止状態。屋内なのか屋外なのか区別がつかないくらいでした。)作業にあたって下さった一般のボランティアの皆さんもです。救援物資の受付・仕分け作業は、私たちボラセンとして初めてのことで、ボランティアの皆さんにどう動いていただければ良いか説明が足りない部分もあったと思いますが、お預かりした救援物資をこと細かく、丁寧に取り組んで下さいました。紙面をかりて感謝いたします。本当にありがとうございました。



さすが兄妹!!
手際よく作業してくれました。



ぞくぞくと寄せられる救援物資。
大切にお預かり!



↓ **これが雫石の宝!!**

